

# (株)ライトレール事業目論見 (概要)

平成 24 年 5 月 7 日  
<http://www.LRT.co.jp>

## 1. 交通に関する時代状況

- (1)クルマ社会は環境問題や高齢社会への対応・渋滞・安全・中心市街地活性化その他の点から限界
- (2)交通・環境・まちづくり関係者共通に「自動車へ過度に依存した交通体系・生活様式から脱却」
- (3)国交省を中心に国は公共交通活性化を重要課題とし調査や社会実験の予算拡大を指向
- (4)日本の鉄道は都市間高速・都市内大量輸送とも世界最先端のノウハウを持ち、世界に貢献できる
- (5)当社が時代の追い風を受ける帆さえ張れば、交通分野で業容拡大・社会貢献できる芽は多数

## 2. (株)ライトレールとは

- (1)大学・大学院で交通を専門に学びJR東日本に17年間勤務した阿部 等が平成17年に創業
- (2)ミッション：人々の生活利便性や幸福を犠牲にすることなく様々な交通問題を解決し社会に貢献
- (3)主体業務は公共交通の活性化に関するコンサルティングで、将来は交通事業を担うことも視野に
- (4)公共交通に関わる国・自治体・交通事業者・メーカー・研究機関その他への広いネットワーク
- (5)鉄道を中心とした公共交通の調査・計画に関する知見とノウハウを蓄積

## 3. 業務実績

- (1)国内外から公共交通活性化や鉄道に関わる調査業務を受託し交通問題の解決に貢献
- (2)『満員電車がなくなる日』(角川SSC新書)を出版し鉄道のイノベーションの可能性を提案
- (3)交通に関わるマスコミ取材・講演・原稿執筆の依頼が多数あり
- (4)交通ビジネス塾を定例開催し、同志が出会い、ビジネスが生まれ、人材育成に資する場を創出
- (5)日本大学の社会交通工学科にて非常勤講師(鉄道工学)を務め交通分野の人材育成に貢献
- (6)工学院大学オープンカレッジの鉄道講座の講師を務め鉄道の知識普及に貢献

## 4. 交通に関する提案

- (1)交通問題解決の根幹は、公共交通の利便向上と適正な受益者負担による利用促進と経営改善
- (2)利便向上の重要点は、混雑緩和・高頻度運行・スピードアップ・ドアツードア性改善の4点
- (3)ICカードを活用した戦略的プライシングも利用促進と経営改善に有効
- (4)鉄道は技術革新と規制改革による利便向上とコスト低減の余地が大きく社会へもっと貢献できる
- (5)首都圏の満員電車は運行・運賃・制度のイノベーションによりなくせ、鉄道発展のシンボルに
- (6)鉄道の発展には革新的な技術開発が不可欠で、当社は具体的提案をいくつも持ち特許も出願

## 5. 今後の事業展開の戦略

- (1)交通分野のスペシャリストが集結し社会の豊かさや人々の幸福の実現に貢献する会社になりたい
- (2)今までの実績・蓄積に基づき継続または新規の調査業務を受託し、評価される成果を積上げ
- (3)地域と交通事業者の双方の考えや意向を承知し、両者の合意形成の潤滑剤役を務める
- (4)調査業務の成果により関係者との信頼関係を構築し、事業経営まで求められることを目指す

※info@LRT.co.jp へメールをお送り下されば、交通の情報やイベント案内を継続してお送りします。

**クルマ社会の次にあるもの** 平成 21 年武蔵同窓会報  
(株)ライトレール 代表取締役社長 阿部 等 (54 期)

## クルマ社会の曲がり角

近年、クルマ社会は曲がり角、もはや限界という雰囲気  
が広まっている。環境問題や高齢社会への対応、若者  
のクルマ離れ、アメリカの自動車ビッグスリーの経営危  
機・・・交通に関わる心ある皆さんの最近の合言葉は  
「自動車に過度に依存した生活様式や都市構造からの脱  
却」だ。

私は、東大の都市工学科で交通計画を学び、JR 東日  
本に 17 年間勤務した後、交通問題の解決をミッション  
に平成 17 年に(株)ライトレールを起業した。最近よく  
聞くようになった Light Rail Transit (LRT) を社名  
に冠し、ドメインも LRT.co.jp を取得した。交通のコン  
サルに携わり、将来の鉄道経営まで目指している。

自動車への過度の依存の問題点を整理する。第 1 に、  
空間利用の非効率性。ほぼ同じ用地幅の複々線鉄道と 4  
車線道路の輸送能力は 60 倍異なる。人口 1000 万人のロ  
サンゼルス都市圏は 3 分の 2 が道路と駐車場だ。第 2 に、  
エネルギー利用の非効率性。鉄道と自動車のエネルギー  
消費原単位は約 6 倍異なる。第 3 に、環境負荷の大きさ。  
鉄道と自動車の CO<sub>2</sub> 排出原単位は 10 倍近く異なる。第  
4 に、交通事故の頻発。日本国内の過去 50 年間の自動車  
交通事故の死者は 50 万人以上、負傷者は 4000 万人近く  
だ。第 5 に、車を運転できない人の移動制約。人生 80  
年の最初 20 年と最後 10 年は運転できず、人生の 8 分の  
3 は交通弱者となる。第 6 に、中心市街地の衰退。モー  
タリゼーションとともに地方では郊外化が行き過ぎ、コ  
ンパクトシティ形成を求める声が高まっている。

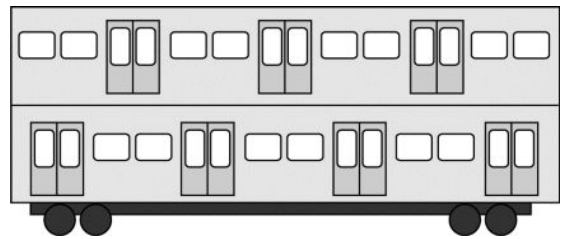
## 満員電車がなくなる日

### —鉄道イノベーションが日本を救う—

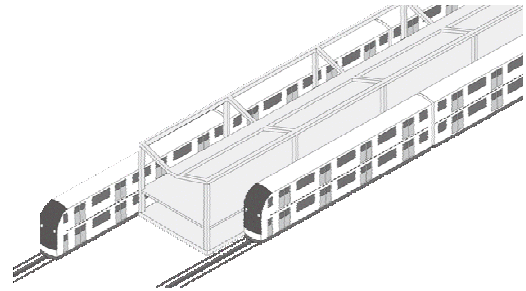
平成 20 年 2 月に角川 SSC 新書『満員電車がなくなる  
日』を出版し、運行・運賃・制度の 3 つのイノベーショ  
ンで満員電車をなくせると提案した。武蔵諸兄にもご笑  
覧願いたい。

ラッシュ時の 2~3 分間隔は決して「過密」でなく、  
自動車と比べむしろ「過疎」運行だ。信号システムの機  
能向上と鉄輪式リニア (都営大江戸線の方式) 化による  
加減速向上で現行の倍以上の本数にできる。同時に、車  
内に階段のない総 2 階建て車両とする。両者を合せて輸

送力を 4 倍以上とでき満員電車はなくせる。



本では 2 階の乗降のために特殊な駅構造を提案したが、  
出版後にホームも 2 層化すれば良いと思いついた。



日本の鉄道 130 数年の歴史を調べて気付いた「満員電  
車の歴史は運賃抑制の歴史」を改めるのが運賃のイノベ  
ーション。イラストのように着席割増料金を収受する。



首都圏の鉄道全体で低めに見積って年間 3000 億円の  
増収となり、満員電車の解消に必要な 10 兆円の投資と  
その他 5 兆円の経費増を 50 年間で回収できる。

## 鉄道の活躍への期待

『満員電車がなくなる日』で伝えたかったのは、鉄道  
はイノベーションにより社会にもっと貢献できるという  
点だ。満員電車の解消は、鉄道がクルマ社会の次の時代  
に社会で活躍するシンボル。

クルマ社会が限界だからと江戸時代には戻れない。中  
国・インド・アフリカの人達にも豊かな生活を求める権  
利がある。ならば、クルマに代る空間・エネルギー利用  
が効率的で、環境負荷が小さく、安全で、誰でも使え、  
まちを活性化する交通システムが求められる。

満員電車、不便なローカル線、高コストな LRT を我  
慢して使うことはない。鉄道は、もっと便利で低コスト  
にでき、玄関から玄関まで人や物を運べない弱点も克服  
できる。具体的内容を書く紙面はないが、新た出版予  
定の新書に書くので、乞うご期待。

小池都知事の公約「満員電車ゼロ」は『満員電車がなくなる日』（2008年）が元ネタ  
2016年に内容を増強した改訂版を出版

**満員電車がなくなる日**  
改訂版  
阿部 等

100年間続く日本の満員電車  
気鋭の交通コンサルタントが  
できない理由でなく、  
できる方法を提案！  
満員電車ゼロを実現する  
鉄道イノベーション!!

ISBN 978-4-86403-224-7  
C0085 Y1203e  
定価(本体1200円+税)

阿部 等 あへのとし  
1961(昭和36)年、東京都生まれ。  
東京大学工学部都市工学科修士  
修了。博士中退。交通計画を専門  
に学ぶ。1988(昭和63)年、JR東日  
本に第1期生として入社。鉄道の  
実務と研究開発に17年間従事。2005(平成17)年に株  
式会社ライトレールを創設し、交通計画のコンサルラン  
グに従事する。2008(平成20)年に『満員電車がなくな  
る日』(角川SSC新書)を出版。様々な鉄道の活性化策を  
提案し、鉄道に関して各種メディアにしばしば寄稿・コメン  
トする。

「小池都知事の誕生により  
希望が出てきた  
満員電車対策の本の改訂版が  
タイミング良く出た」 曾根 悟 (工学部大学院教授)

「満員電車ゼロ」を  
実現する処方箋!!

- ◆ 信号の機能向上とその増設案
- ◆ 駅2階建て車両の導入
- ◆ 複々線化に代わるS線化
- ◆ 駅構内エレベーター導入
- ◆ 駅周辺と立ち寄り駅の別構想

茨光祥出版の鉄道書

「路面電車発展史」(茨光祥・マイルウェイ・リポート1)	大買券部(2冊)	1,500円
「電気鉄道のセクション」(茨光祥・マイルウェイ・リポート2)	持券券部(2冊)	1,500円
「蒸気機関車DS1大事典」	寛川野夫・成瀬孝司(2冊)	1,800円
「東急今昔物語」	吉田謙一(1冊)	1,600円

● 茨光祥出版オフィシャルウェブ  
<http://www.ebisukosyo.co.jp>  
インターネットで上記のタイトルにアクセスすると、  
小社の最新・発行予定イベントの情報をご覧いただけます。

快適に動ける都市へ!!  
鉄道の安全を維持しながら  
運行の効率を徹底的に高める  
さまざまな方策を提案!!  
満員電車からの  
解放を目指す一案  
(元)『満員電車ゼロ』  
東京都知事 小池百合子

鉄道の安全を維持しつつ、鉄道事業者の経営を改善し、多額の税金投入を要せずに  
運行・運賃・制度の3つのイノベーションにより「満員電車ゼロ」を達成

**満員電車とは**

- ・ 利用者にとっては
  - 最大の不満 = 事業者のビジネスチャンス
- ・ 鉄道行政にとっては
  - 最大の課題 = 国民の期待、社会活力の向上
  - 要諦は事業者の活力を引出すこと
- ・ 鉄道事業者にとっては
  - 最大のビジネスチャンス = 値付けが鍵
- ・ 鉄道技術者にとっては
  - 最大の取組み対象 = チャレンジしがいあり

**この本の基本コンセプト**

- ・ 鉄道はイノベーションにより
  - 社会にもっともっと貢献できる
- ・ 満員電車の解消は
  - 新時代に鉄道が社会で活躍するシンボル
- ・ 鉄道が社会で活躍するためには
  - 技術革新と適正な費用投入による利便向上
  - 利便の高さに応じた適正な受益者負担と弱者への公的補助
  - 制度の改革・適正化による民間活力の引出し

最も強調したいのは以下の点。

満員電車をなくす術はあり、鉄道事業者がそれを実行する資金を獲得できれば、満員電車をなくせる。一方、鉄道利用者の少なからずは、それにより実現される良質サービスを購入する意思を持っている。従って、鉄道が低運賃政策の呪縛から開放されれば満員電車をなくせる。

同様に以下ではないだろうか。

成長期待産業（保育・教育・介護・医療・環境・交通・農業）は、政府が資金を獲得して財政出動すれば成長させられる。一方、国民は、景気が向上し雇用が増大し生活が豊かになり老後が安心となるなら、負担を受入れよう。従って、政府が増税忌避の呪縛から解放されればこの国を再生できる。



交通ビジネス塾 交通分野の第一人者をゲスト講師に、交通問題を解決する同志が会い、交通ビジネスが生まれる場を目指します。

回	開催日	講師(敬称略)	所属・役職(開催日時点)	テーマ
	調整中	野崎哲夫	(株)鉄道会館 相談役	東京駅と中央線の進歩の歴史と戦略
125	19/11/19	真貝康一	日本貨物鉄道(株) 代表取締役社長	貨物鉄道輸送の未来に向けて
123	19/09/20	石田東生	筑波大学 名誉教授、日本大学 理工学部 交通システム工学科 特任教授	新しいモビリティサービスへの期待と課題
124	19/10/11	石田東生	筑波大学 名誉教授、日本大学 理工学部 交通システム工学科 特任教授	新しいモビリティサービスへの期待と課題
122	19/08/21	石田東生	筑波大学 名誉教授、日本大学 理工学部 交通システム工学科 特任教授	新しいモビリティサービスへの期待と課題
121	19/07/30	高原幸一郎	(株)NearMe 代表取締役社長	タクシー相乗りで次世代モビリティを創造するnearMe.の挑戦
120	19/05/17	元田良孝	日本工営(株) コンサルタント国内事業本部 技師長、岩手県立大学 名誉教授	エスカレーター輸送の基本特性
119	19/04/08	網島 均	日本大学 生産工学部 機械工学科 教授	鉄道における状態監視の現状と展望
118	19/03/04	吉田正彦	総務省 情報流通行政局 地域通信振興課長	ICTを利用した鉄道の災害情報伝達
117	19/01/21	鳥塚 亮	(N)おおいのローカル線をつくる会(前)いすみ鉄道(株) 代表取締役社長	鉄道の計画運休とBCP(業務継続計画)
116	18/11/05	内山拓郎	給与ホールディングス(株) フェロー	FDA(フジドリームエアラインズ)の挑戦
115	18/08/06	山内弘隆	(一財)運輸総合研究所 所長、二橋大学大学院 経営管理研究科 教授	空港コンセッションの展開
114	18/06/08	渡邊浩司	国土交通省 都市局 街路交通施設課長	まちづくりと街路・交通の新たな展開
113	18/03/20	田口 東	中央大学 理工学部 情報工学科 教授	首都圏鉄道ネットワークは東京五輪輸送の余裕を持つか?
112	18/02/20	篠田憲治	(独)自動車技術総合機構 交通安全環境研究所 客員専門調査員	ヨーロッパにおける鉄道の自動運転の現状
111	17/12/07	安部誠治	関西大学 社会安全学部長	今後の鉄道の安全を考える
110	17/10/21	金子正志	国土交通省 総合政策局 公共交通政策部 交通計画課長	地域公共交通の活性化及び再生に向けた施策と課題
109	17/10/03	金子正志	国土交通省 総合政策局 公共交通政策部 交通計画課長	地域公共交通の活性化及び再生に向けた施策と課題
108	17/08/31	中村一郎	三陸鉄道(株) 代表取締役社長	三陸鉄道の復興と三陸の未来
107	17/06/27	福原俊一	電車発達史研究家	私鉄高性能電車の時代
106	17/06/06	牛島雅隆	IR貨物 取締役・執行役員 安全推進本部長	IR貨物の様々な課題とチャレンジ
105	17/04/20	名取紀之	(株)ネコ・パブリッシング 鉄道・模型事業本部 編集局長	鉄道趣味の昨日、今日、そして明日
104	17/03/27	大賀寿郎	芝浦工業大学 名誉教授	電車技術の発展の歴史と今後への期待
103	17/02/27	櫻井 寛	鉄道フォトジャーナリスト	鉄道写真 安全と傑作写真の両立を目指す
102	17/01/23	堀野太郎	(株)総合車両製作所 生産本部技術部デザインセンター	鉄道車両のユニバーサルデザインとイノボランスのデザイントレンド
101	16/12/01	会沢 努	京成バス(株) 営業部長	京成バスのバス事業活性化への取り組み
100	16/10/31	大森正樹	IR西日本 鉄道車両 車両部 車両設計室 課長	IR西日本の車両設計・デザイン
99	16/09/27	細井和雄	大手民鉄 元運転士	運転経験者から見た運転・施設・ダイヤ
98	16/08/18	大内 学	(株)ITBパブリッシング 出版事業本部 時刻表編集部 編集長	ITB時刻表制作の裏側と沿線地域活性化への取組み
97	16/07/01	川西康之	(株)イチバナシ 代表取締役	未来のお客様のための駅設計と車両デザイン
96	16/05/30	永瀬和彦	金沢工業大学 客員教授	鉄道は事故からの学びで発展した
95	16/04/25	大坂直樹	週刊東洋経済 臨時増刊号「鉄道全真相」編集長	鉄道記事の舞台裏
94	16/03/28	春田啓郎	由利高原鉄道(株) 代表取締役社長	由利鉄の最悪の環境を打破
93	16/02/23	今尾恵介	地図研究家	地形図でたどる東京の私鉄発達史
92	16/02/20	岸井隆幸	日本大学 理工学部 土木工学科 教授	東京圏の将来: Beyond 2020
91	16/01/12	岸井隆幸	日本大学 理工学部 土木工学科 教授	東京圏の将来: Beyond 2020
90	15/11/20	今成孝雄	上田電鉄(株) 代表取締役社長	別所線の活性化施策は成果を得られるか?!
89	15/10/30	藤澤和弘	(一財)北陸経済研究所 主任研究員	北陸新幹線レボリューション
88	15/09/15	赤瀬達一	(株)黎デザイン総合計画研究所 代表取締役	日本の駅サインをわかりやすくする
87	15/08/24	近藤圭一郎	千葉大学 工学部 電気電子工学科 教授	鉄道車両駆動における給電・蓄電・駆動技術
86	15/07/24	秋月将太郎	(株)野村総合研究所 事業戦略コンサルティング部 上級コンサルタント	海外鉄道オペレータの現状と日本企業の海外進出戦略
85	15/06/15	中村 仁	伊豆箱根鉄道(株) 代表取締役社長	鉄道運賃の決り方と疑問
84	15/05/25	小野田 滋	(公財)鉄道総合技術研究所 情報管理部 担当部長	近代化遺産としての鉄道建造物の保存と利活用
83	15/04/17	樺澤 豊	わたらせ渓谷鐵道(株) 代表取締役社長	わたらせ渓谷鐵道の課題と取組み
82	15/03/24	山田和昭	若狭鉄道(株) 代表取締役社長	地方創生に向けた若狭鉄道の挑戦
81	15/02/20	大内田史郎	工学院大学 建築学部 建築デザイン学科 准教授	東京駅とその周辺の変遷 - 建築・都市・交通 -
80	15/01/22	阿部 肇	(株)ライトレール 代表取締役社長	沿線革命
79	14/11/25	川島三二	鉄道アナリスト	東京圏通勤電車最新事情と配線よもやま話
78	14/10/20	谷口 守	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授	公共交通に配慮した新たな時代のまちづくり
77	14/09/01	森本章徳	早稲田大学 理工学術院 社会環境工学科 教授	宇都宮におけるLRT導入の経緯と課題
76	14/08/22	松田暢夫	新潟市 参事・政策監 総括	日本海側の拠点都市にむけた取組み
75	14/07/31	原 潔	(一社)交通環境整備ネットワーク 専務理事	地域鉄道再生のための上下分離方式
74	14/07/17	今岡和也	国土交通省 総合政策局 公共交通政策部 交通計画課 地域振興室長	都市再生と地域公共交通活性化
73	14/07/03	今岡和也	国土交通省 総合政策局 公共交通政策部 交通計画課 地域振興室長	都市再生と地域公共交通活性化
72	14/05/29	福田雅敏	(株)東京アールアンドデー 執行役員 営業企画本部長	電気バスの開発とチンチン電車の電池駆動化
71	14/04/25	福田雅敏	(株)ナビタイムジャパン 路線検索チームフェーズリーダー	ナビゲーションデータが切り拓く交通分析の未来
70	14/03/03	松本 順	(株)経営共創基盤(株) ぬちのりホールディングス 代表取締役	ぬちのりグループの交通(主)にバス) 事業改革
69	14/02/20	根田圭介	(株)IR総研 エシエント 事業部 担当部長	駅配線とその改善案
68	14/01/28	鈴木 学	(株)日立製作所 交通システム社 技監	日立鉄道ビジネスのグローバル展開
67	13/12/03	根田圭介	鎌倉市 行政アドバイザー、鎌倉市観光プロデューサー	地域鉄道再生へのアプローチ
66	13/11/27	永瀬 徹	伊豆急行(株) 取締役社長	地方民鉄の現状と課題、そして将来の展望
65	13/10/07	辻村 功	辻村技術士事務所	鉄道マニアの探案
64	13/08/28	佐伯 洋	(一社)日本鉄道車輛工業会 専務理事	鉄道を支える「機軸」を考える
63	13/07/08	秋山哲男	日本福祉のまろさんシステム 会長(N) 健やかまちづくり 理事長	地域におけるモビリティと生活支援サービスの連携
62	13/06/13	吉賀 善	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 助教	スマートフォルのまちづくりとこれから
61	13/05/13	古賀 善	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 助教	ストームでも働ける「機軸」の開発
60	13/04/03	手石 善	(株)ウェルモーターズ 企画・マーケティング推進C 開発・推進第二部	DVD「車両基地」制作から見る鉄道コンテンツの可能性
59	13/03/04	城石典明	東京急行電鉄(株) 執行役員 鉄道事業本部 副本部長	東京急行電鉄の鉄道事業における取組み
58	13/01/23	吉田 勇	ビューティフルホールディングス(株) 代表取締役社長	需要創造型観光事業の醍醐味
57	12/11/14	中村 英夫	日本大学 理工学部 電子情報工学科 教授	鉄道運行の本質制御システム
56	12/10/24	小嶋 信	日本大学 工学部 都市工学科 名誉教授	地方公共交通の再生と企業・地域づくり
55	12/09/26	太田勝敏	東京大学 工学部 都市工学科 名誉教授	交通計画における不確実性への対応
54	12/08/22	西村 公	日本貨物鉄道(株) ITMセンター 所長	鉄道貨物輸送の現状と課題
53	12/07/31	山科 明	東京地下鉄(株) 取締役 安全・技術部及び運転部担当	地下鉄整備の歴史と今後の取組み
52	12/06/27	谷島 賢	イギリスバス(株) 代表取締役社長	新たなバスシステムへの挑戦
51	12/05/28	高松良晴	元IR東日本 副社長、日本鉄道建設公団 副総裁	東京近郊第三セクター鉄道の経営
50	12/04/16	富井規雄	千葉工業大学 情報科学部 情報工学科 教授	日本の鉄道は(なぜ)正確か?
49	12/03/29	堀内丈太郎	国土交通省 鉄道局 都市鉄道課長	都市鉄道の今日の課題
48	12/02/29	南井健治	近畿車輛(株) 車両事業本部 営業部長	アメリカにおけるLRTの状況
47	11/11/01	長谷部正道	(株)大和総研 調査提言企画室 主任研究員	交通インフラに対する持続可能な民間資本導入のあり方
46	11/10/05	加藤一誠	日本大学 経済学部 教授	今後の空港「経営」のあり方
45	11/09/06	藤井 聡	京都大学大学院 工学研究科 都市社会工学専攻 教授	日本復興計画
44	11/08/04	室井寿明	(財)運輸政策研究機構 調査役	首都圏大震災後の鉄道運行と代行バスのあり方
43	11/06/30	板谷和也	(財)運輸調査局 調査研究センター 副主任研究員	交通基本法の論点
42	11/05/30	向谷 美	ミュージシャンタレント(株) 音楽館 代表取締役	鉄道のデジタルコンテンツとそのビジネスについて
41	11/02/14	牧野浩志	東京大学 生産技術研究所 先進モビリティ研究センター 准教授	交通と都市の進化からみた次世代の交通
40	11/01/31	阿部 尊	(株)ライトレール 代表取締役社長	道路・自動車から鉄道への運輸政策のモダリティシフト(その2)
39	10/12/20	阿部 尊	(株)ライトレール 代表取締役社長	道路・自動車から鉄道への運輸政策のモダリティシフト
38	10/11/01	原田 昇	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 教授	東京の交通2050
37	10/09/13	早坂房次	東京電力(株) 東京支店 営業部 都市ソリューションG 副部長	交通問題をエネルギー問題からとらえ直す
36	10/08/19	仲津真治	東京電力(株) 顧問	道路あれこれ
35	10/08/02	水間 毅	(独)交通安全環境研究所 交通システム研究領域 領域長	新しい交通システム、技術と国際規格・認証
34	10/06/28	吉田千枝	ひたちなか海浜鉄道(株) 代表取締役社長	市民協働 ひたちなか海浜鉄道
33	10/05/31	中川 誠	京都大学大学院 工学系研究科 都市社会工学専攻 教授	鉄道政策再構築のとき
32	10/04/30	古岡隆章	東京大学大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 准教授	リニアモーター・磁気浮上の技術と軌道交通への応用の展望
31	10/02/26	鈴木文彦	交通ジャーナリスト	地域の身の丈に合った元氣な公共交通体系のつくり方
30	09/12/04	森 雅志	富山市長	公共交通を軸としたコンパクトまちづくり
29	09/11/20	市川嘉一	日本経済新聞社 編集局 産業地域研究所 地域研究G 主任研究員	ジャーナリストから見た日本の都市交通政策(雑感)
28	09/10/30	井能 均	(株)日本総合研究所 執行役員 戦略戦略センター所長	グリーン・ニューディールで始まるインフラ大転換
27	09/09/30	三村真宗	ベターブレイス・ジャパン(株) 事業開発本部長 社長室長	E.Vインフラ構想と日本株の戦略
26	09/08/17	二宮祐子	経済・経営ライナー(人)とシステムの関わりをテーマとする)	定時運転から考える社会と鉄道の関係
25	09/07/27	佐藤幸幸	亜細亜大学 経済学部 講師(交通政策論、日本産業論)	地方鉄道を維持するための仕組みを考える
24	09/04/28	藤 朝幸	日本大学 理工学部 社会交通工学科 教授	地域公共交通活性化のために何をすべきか
23	09/02/04	黒崎文雄	ジェイアール東日本コンサルタンツ(株) 海外事業部 次長	世界の鉄道の上下分離について
22	08/12/22	安藤正博	(社)日本地下鉄協会 リニアメトロ推進本部 首席調査役	Mr.リニアメトロが語るリニアモーター方式地下鉄のものづくり
21	08/11/21	小笠正道	(財)鉄道総合技術研究所 車両制御技術研究所 駆動制御研究室長	架線レスLRTの走行試験および急速充電試験の結果
20	08/10/28	藤井市	福井市 都市戦略部 副理事(交通政策担当)	LRTを先導施策とする福井市都市交通戦略
19	08/09/02	阿部 尊	(株)ライトレール 代表取締役社長	満員電車がなくなる日
18	08/08/21	曾根 悟	工学院大学 エクステンションセンター 顧問・客員教授	障壁と異論・反論・討論
17	08/07/17	高木 亮	同 工学部 電気システム工学科 准教授	障壁と異論・反論・討論
16	08/06/23	松本 陽	(独)交通安全環境研究所 名誉教授	新しい都市交通システム開発のあゆみ快適通勤実現のための一手
15	08/05/29	藤田崇義	ソウル大学環境大学院 博士課程	都市交通の話題とランドデザイン、私見
14	08/04/25	石川太一	川崎重工業(株) 車両カンパニー 技術本部 開発部	低床電池駆動LRV SWIMOについて
13	08/04/01	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
12	08/02/29	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
11	08/01/25	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
10	07/12/07	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
9	07/11/28	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
8	07/10/22	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
7	07/09/28	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
6	07/08/24	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
5	07/07/23	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
4	07/06/08	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
3	07/05/25	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
2	07/04/07	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて
1	07/03/20	奥 保政	同 同 理事 本部長	低床電池駆動LRV SWIMOについて